

どんな時に内視鏡検査(胃カメラ)が必要ですか？

「お腹が痛い」、「何となくお腹の調子が悪い」などの症状は多くの方がご経験されていると思います。そんな時、多くの方は日常生活が忙しく「まあ、いいか!」と思って放置していませんか？

今回は特に上部消化管内視鏡検査(いわゆる胃カメラ:食道、胃、十二指腸を観察)が必要である主要な病気、症状について考えてみます。



【食道疾患】

食道炎や食道潰瘍 (胸やけ)

食道癌 (つかえる感じ)

食道静脈瘤 (ほとんど自覚症状はない。肝硬変に合併。破裂すると吐血や下血(タール便)が認められ重篤な状態になる)

【胃疾患】

急性胃炎 (急な上腹部の痛み。吐き気)

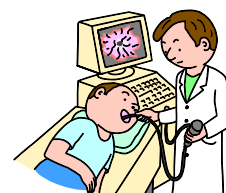
慢性胃炎 (症状はあなりない~鈍痛)

胃潰瘍 (食後しばらくたってからの胃の痛み)

胃癌 (早期癌はほとんど症状がない。進行すると鈍痛や全身倦怠感、体重が減少する)

胃粘膜下腫瘍 (ほとんど自覚症状はない)

胃ポリープ (ほとんど自覚症状がない)



【十二指腸疾患】

十二指腸潰瘍 (上腹部の空腹時の痛み)

胃潰瘍や十二指腸潰瘍などから出血がおこると黒色便(タール便:胃酸によって血液が酸化されて黒くなる)が認められます。このように消化管から出血が認められた時には緊急的に内視鏡検査をして止血治療する必要があります。胸やけ、つかえ感、胃の痛みなどの症状がある場合は胃カメラの検査は必要ですが、全く症状がなくても胃癌などの治療が必要な病気を早期に見つけるために定期的な検診が必要となるわけです。

一方、自覚症状があっても胃の中はいたって健康である方もおられます。

その他、飲み過ぎ 食べ過ぎで嘔吐をすると食道 - 胃の境目の粘膜が裂けて出血をおこしたり(マリー-ワイス症候群)、生肴や生イカなどを食べたあとの心窩部の激痛(アニサキス症候群)なども胃カメラ検査の適応になります。

「胃カメラは怖い」と思いがちですが、苦しくないように鎮静剤を使い、検査中も希望によりご自身で自分の胃の中を観察することも可能です。検査時間はスクリーニングあれば約5~10分程度です。検査によりの確な診断、適切な治療が可能となりますので、これらの自覚症状がある場合、また、胃癌などがご心配な方、ご家族に胃の病気がある方などはお気軽にご相談ください。